

小 児 医 学

科目責任者 白 石 秀 明
学年・学期 3 学年・3 学期

I. 前 文

小児医学の特徴は、広範な臓器専門領域を含むこと、小児が成長発達過程にあるために、臓器や系統の障害が他臓器の障害を伴いやすく、全身的な視点に立つ必要があることである。小児医学について、小児科、小児外科、リハビリテーション科、放射線科の立場から講義される。さらに、循環器、呼吸器、脳・神経、血液・造血器、アレルギー・膠原病、腎・泌尿器、精神医学、救急医学などの専門分科でも講義される。

これらの講義のなかで、臨床的に必要な知識を、わかり易く、重点的に把握できるようにしたい。また、未来の社会の担い手である小児の健全な育成という立場で、小児に接し、その問題にアプローチする態度を育てたい。

II. 担当教員

小児科学	白 石 秀 明
外科学（上部消化管）	小 嶋 一 幸
リハビリテーション科学	入 澤 寛
放射線医学	曾 我 茂 義
埼玉医療センター・小児科	新 任 教 授

III. 一般学習目標

遺伝的形質の発現と環境への適応のなかで進行するヒトの成長と発達、その過程のなかで起きる種々の障害の機構を理解する。これらの現象の生物学的本態のみでなく、広くその精神的、社会的側面をも理解する。

これらの障害の発生を予防する方法、治療する方法について、具体的な知識を獲得する。

実際に小児を診るときに、これらの知識が役立つように整理して把握する。

IV. 学修の到達目標

1. 成長・発達の過程を理解する。
2. 個体の特性の種類とその成立を理解する。
3. 小児の健康と疾病の発現過程における先天的要因、発達性要因、環境要因の役割と重要性を理解する。
4. 小児の健全な育成のための栄養・養護についての基本的知識を獲得する。
5. 小児に多発するか、特有の疾患の病態、診断、治療、予防についての基本的知識を獲得する。
6. 小児保健医療システム、リスク児の把握、定期健康診査などのシステムを理解する。
7. 小児のケアにおいて、身体面だけでなく、心理面および家族・社会環境の重要性を認識し、小児を全人的に把握する必要性を理解する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	12	10	水	3	先天異常（遺伝、染色体異常、先天奇形）	小 児 科 学 宏 鈴 村	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
2	12	10	水	4	内分泌Ⅰ（成長，成熟，低身長）	埼玉・小児科 小山さとみ	1
3		10	水	5	消化器疾患Ⅰ（水・電解質・胃腸炎・下痢）	小児科学 加納優治	1
4		10	水	6	発生，成長（各種臓器の発生，出生後の発育）	小児科学 白石秀明	1
5		11	木	2	内分泌Ⅱ（甲状腺，副腎，性分化）	埼玉・小児科 小山さとみ	1
6		11	木	3	内分泌Ⅲ（やせ，肥満，糖尿病）	埼玉・小児科 小山さとみ	1
7		12	金	1	乳幼児の発達，成育小児科学	小児科学 加藤正也	1
8		12	金	2	消化器疾患Ⅲ（肝臓，胆嚢）小児外科より	外科学（上部消化管） 鈴木完	1
9		12	金	3	小児の画像診断	放射線医学 桑島成子	1
10		12	金	4	社会小児科学（保健統計，母子保健，児童虐待，不登校，LGBTQ，貧困）	小児科学 加納優治	1
11		12	金	5	小児の栄養，中毒	小児科学 加納優治	1
12		12	金	6	発達障害，精神心理的疾患	小児科学 今高城治	1
13		16	火	4	新生児学Ⅰ（総論，低出生体重児）	小児科学 渡部功之	1
14		16	火	5	消化器疾患Ⅱ（通過障害，腹痛）	小児科学 萩澤進	1
15		16	火	6	先天代謝異常症	小児科学 今高城治	1
16		17	水	1	免疫（感染免疫，免疫不全）	小児科学 福島啓太郎	1
17		17	水	2	感染症Ⅰ（小児の感染症総論・抗菌化学療法・予防接種・結核症・非定型肺炎）	小児科学 福島啓太郎	1
18		17	水	3	小児のリハビリテーション医療	リハビリテーション科学 入澤寛	1
19		17	水	4	小児外科Ⅰ（総論，頸部，食道，肺，横隔膜）	外科学（上部消化管） 鈴木完	1
20		17	水	5	小児外科Ⅱ（上部消化管，悪性腫瘍）	外科学（上部消化管） 鈴木完	1
21		17	水	6	運動発達障害（脳性麻痺など）	小児科学 白石秀明	1
22		18	木	1	感染症Ⅱ（細菌感染症，総論および臓器別の細菌感染症各論）	小児科学 渡部功之	1
23		18	木	2	新生児学Ⅲ（黄疸・肝・消化器・泌尿器・血液）	小児科学 渡部功之	1
24		18	木	3	消化器疾患Ⅲ（肝臓，胆嚢）小児科より	小児科学 佐藤雄也	1
25		19	金	1	新生児学Ⅱ（呼吸器，循環器疾患）	埼玉・小児科 新田晃久	1
26		19	金	2	新生児学Ⅳ（中枢神経系疾患，感染症）	埼玉・小児科 新田晃久	1
27		19	金	3	小児外科Ⅲ（鼠径，腹壁）	外科学（上部消化管） 鈴木完	1
28		19	金	4	小児外科Ⅳ（下部消化器）	外科学（上部消化管） 鈴木完	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
29	12	19	金	5	小児がんⅠ（主に総論）	小 児 科 学 福 島 啓 太 郎	1
30		19	金	6	小児がんⅡ（主に各論）	小 児 科 学 福 島 啓 太 郎	1
31		19	金	7	小児の筋疾患	小 児 科 学 今 高 城 治	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験，出席状況等を総合的に判断し評価する。

定期試験（80％），出席状況・態度（20％）

なお，定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書

教科書：「標準小児科学 第9版」2022年，原寿郎 監修，高橋孝雄 他編，医学書院

「クリニカルガイド小児科：専門医の診断・治療」2021年，水口雅，山形崇倫 編，南山堂

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。但し，事前に秘書を通じ，アポイントを取る。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間試験の結果を講評・解説する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安 20 分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。